

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年5月10日

【四半期会計期間】 第20期第3四半期(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社アイスタイル

【英訳名】 istyle Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉松 徹郎

【本店の所在の場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号

【電話番号】 03(5575)1260

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 菅原 敬

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号

【電話番号】 03(5575)1260

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 菅原 敬

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期連結累計期間	第20期 第3四半期連結累計期間	第19期
会計期間	自 2017年7月1日 至 2018年3月31日	自 2018年7月1日 至 2019年3月31日	自 2017年7月1日 至 2018年6月30日
売上高 (百万円)	20,711	24,019	28,470
経常利益 (百万円)	1,677	327	2,147
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	923	44	1,184
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	429	68	650
純資産額 (百万円)	11,686	11,773	12,008
総資産額 (百万円)	20,995	23,305	21,911
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	14.56	0.69	18.62
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期)純利益金額 (円)	14.26	0.64	17.12
自己資本比率 (%)	54.1	48.6	53.0

回次	第19期 第3四半期 連結会計期間	第20期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年1月1日 至 2018年3月31日	自 2019年1月1日 至 2019年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額 (円)	3.52	0.22

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

(連結の範囲の重要な変更)

・On Platform事業

当第3四半期連結会計期間において、新たに設立出資された株式会社アイスタイルラボ設立準備会社を、連結子会社としております。

・Beauty Service事業

第1四半期連結会計期間において、株式会社コスメネクストは、連結子会社であった株式会社ユナイテッド・コスメを吸収合併しております。

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第3四半期連結会計期間において、株式を追加取得したことにより、LiME株式会社を持分法の適用の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社グループは2016年8月3日発表の中期経営計画に基づき、当連結会計年度を投資拡大のフェーズと定め、中期経営計画最終年度となる来期の収益化加速に向けて、人的・資金的リソースを積極的に投入することとしております。なお、中期経営計画については、各事業の進捗を見ながら修正を検討しており、現在精査中です。

当第3四半期連結累計期間におきましては、2018年12月3日に行いましたECのスペシャルイベント「@cosme Beauty Day」の宣伝を目的とした大規模プロモーションに463百万円を投下いたしました。これにより一時的に大きく減益となりましたが、@cosmeブランドの認知拡大や新規ユーザーの獲得によって、プラットフォーム全体の価値が向上いたしました。

また、その他事業におきましては、前第3四半期連結累計期間において営業投資有価証券のキャピタルゲイン（売上総利益：355百万円）を計上しておりますが、当第3四半期連結累計期間においては該当する取引が無いため、前年同期比で大きく減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

売上高	24,019百万円	（前年同期比	16.0%増）
営業利益	377百万円	（前年同期比	77.4%減）
経常利益	327百万円	（前年同期比	80.5%減）
税金等調整前四半期純利益	340百万円	（前年同期比	79.5%減）
親会社株主に帰属する四半期純利益	44百万円	（前年同期比	95.2%減）

#### On Platform事業

当セグメントには、当社が運営する美容系総合サイト「@cosme（アットコスメ）」を基盤とした各種サービス（BtoB、BtoC）が属しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、BtoBサービスが引き続き好調に推移いたしました。広告に次ぐ収益の柱と位置付ける新サービス「ブランドオフィシャル」においては、専門営業チームを立ち上げるなど、同サービスに人的リソースを戦略的に配分いたしました。同サービスの導入拡大には時間を要しておりますが、今期末の目標に対しては堅調に推移しております。

なお、システム費用や人件費などの先行投資により減益となっておりますが、ブランドオフィシャルの導入を促進することで改善されることを見込んでおります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	5,798百万円	（前年同期比	7.8%増）
セグメント利益	1,800百万円	（前年同期比	9.4%減）

#### Beauty Service事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme shopping（アットコスメショッピング）」の運営、化粧品専門店「@cosme store（アットコスメストア）」の運営や、プライベートブランドの企画・開発・販売等の国内における小売業を中心としたサービスが属しております。

ECにおきましては、12月3日に行った24時間限定のECのスペシャルイベントが売上の増加に寄与いたしました。また、第3四半期においても既存顧客のリピートを中心として、好調に推移いたしました。

国内の店舗におきましては、当第3四半期連結会計期間に、@cosme storeの強みを十分に発揮することができず収益性が低かった小型店2店舗の閉店と、好調なルミネ大宮店とアミュエスト博多店の増床を行っており、今後は豊富な品揃えが可能な大型店の出店に特化することとしております。

また、初の大型路面店となる「@cosme TOKYO」を原宿駅前に、年内を目標にオープンすることを決定いたしました。2020年に向けて大きく環境が変わる原宿というエリアで、売場面積約1,300㎡を誇る大型店という強みを活かした店舗運営を行ってまいります。これまで取り扱いのなかったブランドも含め、ラグジュアリーブランドから低価格帯のブランドまで、@cosmeで人気の商品を一堂に会した豊富な品揃えで、ユーザーの皆さまに、自分に合った化粧品と出会うきっかけを提供してまいります。

なお、同店のオープンは来期となるため今期の業績に与える影響は軽微です。また、来期の業績に与える影響は精査中であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	10,629百万円	(前年同期比	20.3%増)
セグメント利益	421百万円	(前年同期比	1.1%減)

#### Global事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC・卸売、店舗、メディア等のサービスが属しております。

EC・卸売におきましては、中国において2019年1月1日に施行された法改正の影響やW11<sup>1</sup>後の反動もあり、一部の卸先が仕入れを控えたため、減収となりました。

海外の店舗におきましては、2019年2月にタイの2号店をオープンし、これにより海外の店舗は10店舗となりました。引き続き、香港1号店が好調で業績を牽引しておりますが、海外の店舗は出店してから日が浅い店舗が多い状況であり、どのような店舗が成功するかなどを見極めながら、今後の事業展開を検討してまいります。

なお、前第1四半期連結会計期間より損益計算書の連結を開始した、海外企業3社<sup>2</sup>に対するのれんの償却(第3四半期累計償却額：280百万円)を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	6,734百万円	(前年同期比	23.5%増)
セグメント損失	16百万円	(前年同期	セグメント損失 7百万円)

1 中国で開催されるECの大規模なセール

2 下記の3社

- ・ Hermo Creative(M)Sdn. Bhd. (マレーシアで化粧品ECサイト「Hermo」を運営)
- ・ i-TRUE Communications Inc. (台湾で美容系総合ポータルサイト「UrCosme」を運営)
- ・ MUA Inc. (米国で美容系総合ポータルサイト「Makeup Alley」を運営)

## その他事業

当セグメントには、美容部員等を派遣する人材派遣事業と、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、人材派遣事業が着実に成長いたしました。しかしながら、需要は高いものの競争も激しいため、美容業界に特化した人材活用という強みを活かしながら、てこ入れを図ってまいります。

また、投資育成事業におきましては、前第3四半期連結累計期間に営業投資有価証券のキャピタルゲイン（売上総利益：355百万円）を計上しておりますが、当期は該当する取引がないため、減収・減益となっております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	858百万円（前年同期比	17.6%減）
セグメント利益	62百万円（前年同期比	84.8%減）

## (2) 財政状態の分析

### 資産の部

当第3四半期連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,393百万円増加し、23,305百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,324百万円減少し、11,728百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が287百万円、営業投資有価証券が447百万円、商品が636百万円増加したものの、現金及び預金が2,387百万円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ2,718百万円増加し、11,576百万円となりました。これは主に、無形固定資産のその他が1,139百万円、投資有価証券が1,246百万円増加したこと等によるものであります。

### 負債の部

当第3四半期連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ1,629百万円増加し、11,532百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ903百万円増加し、8,254百万円となりました。これは主に、未払法人税等が575百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が437百万円、1年内返済予定の長期借入金が533百万円、短期借入金が600百万円増加したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ726百万円増加し、3,278百万円となりました。これは主に、長期借入金が691百万円増加したこと等によるものであります。

### 純資産の部

当第3四半期連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ235百万円減少し、11,773百万円となりました。これは主に、資本金が70百万円、新株予約権が76百万円増加したものの、資本剰余金が393百万円減少したこと等によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループが支出した研究開発費の総額は8百万円であります。

これはOn Platform事業において、AIを活用したデータ分析・サービス開発に向けての研究開発段階で発生したものであります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性

当社グループの所要資金は、大きく分けて、新規出店、ソフトウェア開発、出資・貸付等の投融資資金と経常の運転資金となっております。

これら所要資金のうち、新規出店に伴う店舗設備の投資及びソフトウェア開発に伴う投資、出資・貸付等の投融資関連については、自己資金及び銀行からの長期借入により調達しております。

また、経常の運転資金については、銀行からの短期借入やグループCMS(キャッシュ・マネジメント・システム)によるグループ資金の有効活用で対応しております。

現状、新規出店に伴う店舗設備の投資及びソフトウェア開発に伴う投資に必要な事業資金は確保されていると認識しております。資金の流動性については、グループCMSによりグループ各社における余剰資金の有効活用に努め、更に金融機関との間で当座貸越契約を締結すること等により、急な資金需要や不測の事態にも備えております。今後につきましても、事業の業績拡大期には先行的に運転資金が増大するビジネスであること、事業拡大に伴い店舗投資や情報化投資の増加が見込まれること等を考慮して、十分な流動性を維持していく考えです。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年5月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	67,360,600	67,440,600	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら制限のない当社の 標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株と なっております。
計	67,360,600	67,440,600		

(注) 2019年4月1日から2019年5月10日までの間に、新株予約権の行使により、80,000株増加しております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年1月1日 ~2019年3月31日	10,000	67,360,600	1	3,626	1	3,397

(注) 1. 新株予約権の行使によって発行済株式総数が増加し、資本金及び資本準備金が増加しております。  
2. 2019年4月1日から2019年5月10日までの間に、新株予約権の行使により発行済株式総数が80,000株増加し、資本金10百万円及び資本準備金10百万円が増加しております。

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,693,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 64,660,500	646,605	
単元未満株式	普通株式 6,600		
発行済株式総数	67,360,600		
総株主の議決権		646,605	

## 【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アイスタイル	東京都港区赤坂一丁目12 番32号	2,693,500		2,693,500	3.99
計		2,693,500		2,693,500	3.99

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年1月1日から2019年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2018年7月1日から2019年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,183	3,796
受取手形及び売掛金	2,707	2,994
商品	2,286	2,922
営業投資有価証券	999	1,446
その他	901	593
貸倒引当金	12	9
投資損失引当金	12	13
流動資産合計	13,053	11,728
固定資産		
有形固定資産	988	1,174
無形固定資産		
のれん	3,462	3,156
ソフトウェア	1,977	1,592
その他	190	1,329
無形固定資産合計	5,630	6,078
投資その他の資産		
投資有価証券	979	2,225
その他	1,262	2,100
投資その他の資産合計	2,240	4,325
固定資産合計	8,859	11,576
資産合計	21,911	23,305

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,617	2,053
短期借入金	1,800	2,400
1年内返済予定の長期借入金	1,312	1,845
未払法人税等	662	87
賞与引当金	236	165
その他	1,724	1,704
流動負債合計	7,351	8,254
固定負債		
長期借入金	2,505	3,196
その他	47	82
固定負債合計	2,552	3,278
負債合計	9,904	11,532
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,556	3,626
資本剰余金	3,513	3,119
利益剰余金	4,770	4,782
自己株式	280	280
株主資本合計	11,559	11,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	38	55
為替換算調整勘定	7	15
その他の包括利益累計額合計	44	71
新株予約権	74	150
非支配株主持分	330	304
純資産合計	12,008	11,773
負債純資産合計	21,911	23,305

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)
売上高	20,711	24,019
売上原価	10,636	12,671
売上総利益	10,075	11,348
販売費及び一般管理費	8,406	10,971
営業利益	1,669	377
営業外収益		
受取利息	1	3
為替差益	9	
投資事業組合運用益	4	3
その他	13	15
営業外収益合計	27	21
営業外費用		
支払利息	10	12
為替差損		24
投資事業組合運用損		2
持分法による投資損失	6	26
その他	4	7
営業外費用合計	19	70
経常利益	1,677	327
特別利益		
投資有価証券売却益		30
特別利益合計		30
特別損失		
減損損失	14	
店舗閉鎖損失		16
その他	5	
特別損失合計	19	16
税金等調整前四半期純利益	1,658	340
法人税等	697	302
四半期純利益	961	38
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	38	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	923	44

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	961	38
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	362	18
為替換算調整勘定	99	12
持分法適用会社に対する持分相当額	71	
その他の包括利益合計	532	30
四半期包括利益	429	68
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	390	71
非支配株主に係る四半期包括利益	39	3

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	
(連結の範囲の重要な変更)	第1四半期連結会計期間において、株式会社コスメネクストは、連結子会社であった株式会社ユナイテッド・コスメを吸収合併しております。 当第3四半期連結会計期間において、新たに設立した株式会社アイスタイルラボ設立準備会社を連結の範囲に含めております。
(持分法適用の範囲の重要な変更)	当第3四半期連結会計期間において、株式を追加取得したことにより、LiME株式会社を持分法の適用の範囲に含めております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)	
(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)	「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
減価償却費	402百万円	683百万円
のれんの償却額	300百万円	303百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年8月10日 取締役会	普通株式	32	0.5	2017年6月30日	2017年9月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年8月3日 取締役会	普通株式	32	0.5	2018年6月30日	2018年9月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					調整額 (注)1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service事業 (百万円)	Global事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
外部顧客への売上高	5,379	8,839	5,451	1,042	20,711	-	20,711
セグメント間の内部 売上高又は振替高	14	44	26	9	94	94	-
計	5,393	8,883	5,478	1,051	20,804	94	20,711
セグメント利益又は損失 ( )	1,986	426	7	407	2,812	1,143	1,669

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,143百万円は、セグメント間取引消去10百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,153百万円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「Beauty Service事業」セグメントにおいて、退店予定の1店舗について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において14百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間においてMUA Inc.の株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより「Global事業」セグメントにおいてのれんが1,692百万円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					調整額 (注)1 (百万円)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2 (百万円)
	On Platform 事業 (百万円)	Beauty Service事業 (百万円)	Global事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	合計 (百万円)		
売上高							
外部顧客への売上高	5,798	10,629	6,734	858	24,019	-	24,019
セグメント間の内部 売上高又は振替高	13	81	25	7	126	126	-
計	5,811	10,710	6,758	865	24,144	126	24,019
セグメント利益又は損失 ( )	1,800	421	16	62	2,267	1,890	377

(注) 1. セグメント利益の調整額 1,890百万円は、セグメント間取引消去9百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,899百万円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	14.56円	0.69円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	923	44
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	923	44
普通株式の期中平均株式数(株)	63,367,682	64,489,354
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	14.26円	0.64円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	1,358,670	4,862,730
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	新株予約権 1 銘柄 潜在株式の数 40,000株	新株予約権 2 銘柄 潜在株式の数 1,281,000株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年5月10日

株式会社アイスタイル  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 早 稲 田 宏

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 本 恭 仁 子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイスタイルの2018年7月1日から2019年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年1月1日から2019年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2018年7月1日から2019年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイスタイル及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。